



【研究主題】 **望ましい「食生活」の基盤づくりによる  
 主体的に考動する児童の育成**

～人・もの・ことを結び、心を育み、体をつくり、学ぶ意欲を高める教育活動の実践～

学校教育目標 **地域を愛し、子どもたち自らが未来を描き、自分を高め、  
 人のためになろうとする土台をつくる**

令和3年度重点目標 **自分のため、人のために考動する笑顔いっぱいさきっ子**

**主体的に考動する児童**

授業改善 **佐敷小版授業スタイル**

**食育**

・食品を選択する力  
 ・食文化

・食事の重要性  
 ・感謝の心

・心身の健康  
 ・社会性

**探究力**

視点1

教科等における  
 食に関する授業

**共感力**

視点2

給食の時間の指導

**協働力**

視点3

保健指導・連携

研究の  
 構想

食生活の  
 基盤

生きる  
 力

令和3年11月30日（火）

**芦北町立佐敷小学校**

# 1 研究の概要

【研究主題】 望ましい「食生活」の基盤づくりによる主体的に考動する児童の育成

- 望ましい「食生活」の基盤づくりとは  
知育、徳育及び体育の基礎となる食に関する正しい知識と食習慣を身に付けること
- 主体的に考動する児童とは  
自己の感情や行動をコントロールし、自ら考え行動し、進んで問題解決に取り組む児童

目指す  
研究の  
方向

- 1 「カリキュラム・マネジメント」の視点を意識した研究
- 2 「授業改善」と「特色のある教育活動」で児童の生きる力を育てる研究
- 3 「食生活」の基盤づくりにつながる研究
- 4 各学校の特色に応じた「汎用性」の高い研究

本校の育てたい力	6つの「食育の視点」
【探究力】自分の課題を知り、目的意識を明確にもって、わかる、できるまで学習等に取り組むことができる。	【食品を選択する能力】 【食文化】
【共感力】支持的風土のある集団づくりを進める中で、相手の気持ちに思いを巡らすことができる。	【食事の重要性】 【感謝の心】
【協働力】習得した事項を生かし、学校や地域の一人として、他者と連携しながら行動することができる。	【心身の健康】 【社会性】

「食に関する指導の手引き—第二次改訂版—」より

## 研究の仮説・視点

仮説 1 視点 1 【探究力】	教科等における食に関する指導を工夫したり、教科等横断的に食育の視点を関連付けたりすることで、食の関心や理解と共に学習意欲や思考力・判断力・表現力等を高めることができるであろう。
仮説 2 視点 2 【共感力】	給食の時間における食に関する指導を工夫したり、給食の時間の在り方を見直したりすることで、給食や食事の大切さを理解し、心を育むことができるであろう。
仮説 3 視点 3 【協働力】	食育と関連させた保健指導を工夫したり、家庭や地域と連携を深めたりすることで、人やものを結び、食習慣の形成を図ることができるであろう。

関係資料作成	「食育」を通して目指す児童の姿 [資料集参照] 低・中・高学年毎に分けて設定……目指す児童の姿の明確化 ➡ 6つの「食育の視点」を探究力・共感力・協働力の育てたい力に分類
	「食」に関する指導一覧 [資料集参照] 学年毎に「食」に関する指導を各教科等の単元毎に取り出す ➡ 食育の視点毎に整理
	「食」に関する指導の関連表 (総合的な学習の時間を中心に) [資料集参照] それぞれの「食」に関する指導を探究力・共感力・協働力に分けて結びつける ➡ 指導の関連性を意識


教科等における「食」に関する指導の分類	
授業A	各教科等の目標と食育の視点が重なる。
授業B	各教科等の目標と食育の視点が一部重なる。
授業C	各教科等の目標と食育の視点は異なるが「食」を手段や方法、素材として活用する。





## 2 研究の実際【視点1（探究力） 教科等における食に関する指導（授業）の充実】

### 【授業A：各教科の目標と食育の視点が重なる】

学年・教科	5年 社会	6年 家庭
単元	「米づくりがさかんな地域」	「まかせてね今日の食事」
本時の目標	資料や既習の学習を活用し、大関米がおいしくできる理由を自然条件と結び付けて考え、表現できる。	環境に配慮した食材の選び方や調理の仕方について問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考えることができる。
食育の視点	【食文化】地形や気候と農産物のつながりについて理解を深める。 	【食事の重要性】彩りを考えて作られた献立に興味をもつ。 【心身の健康】栄養バランスを考えて選択した食材を献立に取り入れる。 【食品を選択する能力】環境に良い食材について知り、食材を選択する。
児童の感想	大関米はきれいな水、豊かな土地を生かしていることが分かった。これからは、どのような工夫があるか調べたい。	調理の時だけでなく、買い物の時から環境のことを考えようと思った。
教師の反省	地域の自然を生かした米づくりについて知ることで、自分たちの地域のよさを実感できた。また、地域の自然について考えることを通して「自然と食料生産のつながり」を身近なものとして理解できた。	「環境にやさしい」という視点をもたせることで、児童は栄養バランスに加えて、食材の選び方や調理の方法を広い視野で考えることができた。学校栄養職員と事前に共通理解していたので、児童の意見の集約が容易であった。



家庭（5年）



道徳（1年）



学活（2年）



家庭（6年）

### 【授業B：各教科の目標と食育の視点が一部重なる】

学年・教科	4年 社会	4年 総合的な学習の時間
単元	「私たちの熊本県」	「残していこう私たちの大切なもの」
本時の目標	熊本県の農産物について調べ、農産物の生産地は自然環境や地形と関連していることを理解する。	うたせ船に携わるGTの話聞く中で、地域の伝統を継承していこうとしている人の思いを感じとり、うたせ船の良さを見直すことができる。
食育の視点	【食文化】熊本県の農産物について考えることを通して、自分たちが食べている農産物について関心をもつ。	【食文化】芦北町にある伝統的な漁法（うたせ船）について調べることを通して、町の伝統的な食文化について分かる。
児童の感想	熊本では、たくさんの農産物が作られていることを知った。日本一の生産量のものもあって驚いた。	うたせ船の伝統的な漁法やそこで捕れる海の食材は、数少なく、この地域特有なものであることが分かった。
教師の反省	給食献立表に示された郷土の料理や郷土の食材を使った献立と、学習した農産物との関連を調べる活動に興味を示していた。今後も時々給食献立を活用し、いろいろな教科と結び付けて食に関心をもたせていきたい。	人を感動させる力がある地域の人・もの・ことを学ぶ活動ができたことで、児童たちは主体的に学習に取り組んでいた。芦北の自然やそこで捕れるものがあるからこそ、うたせ船の伝統が受け継がれてきたことを理解させることができた。



総合（4年）



総合（4年）



学活（2年）



総合（3年）

【授業C：各教科の目標と食育の視点は異なるが、「食」を手段や方法、素材として活用する】

学年・教科	3年 国語	1年 特別の教科 道徳
単元・題材	「すがたをかえる大豆」	「お母さんのプレゼント」（熊本の心）
本時の目標	「中」で説明されている食べ物の事例の順番を考えるを通して、筆者の説明の工夫を理解することができる。	江上トミの生き方について考えることを通して、自分の「良さ」に気づくことができる。
食育の視点	【食文化】食品がどのように工夫されて作られてきたのか理解する。	【食事の重要性】江上トミが家族を喜ばせるために料理を作っていることについて考える。
児童の感想	大豆が調理の仕方の違いによっていろいろな食べ物や調味料に変身するのがとても勉強になり、大豆はすごいなと思った。豆腐やみそ汁を味わって食べてみたい。	「お料理上手になったね。」と言ったお母さんの言葉がうれしいと思った。ぼくも料理をしたい。
教師の反省	児童が、大豆がどのような過程で様々な保存食や食材に変わっていくかを説明文の読み取りを通して理解することができた。大豆の例をもとに、他の食材についてもっと調べたいと学びを広げ、食への興味・関心を高めることができた。	一緒に料理をする時のお母さんの声掛けにより、自分の良さを再認識する経験について話し合うことができた。食との関係が深い題材を活用することで「食の力」「調理や食事の大切さ」について気づくことができた。



国語（なかよし）



国語（5年）



道徳（1年）



国語（3年）

**授業A**

- ・生活、社会、家庭、学級活動といった教科等での取り扱いが多い。
- ・単元や本時の目標と食育の視点が重なり、目標に向かって学習しながら、食育の視点の深まりが見られる実践を行った。
- ・学級活動では、各学年の内容だけでなく全学年を見通して系統を考え、共通理解を図った。

**授業B**

- ・総合的な学習の時間や社会の授業での取り扱いが多くなった。
- ・「食」は文化や産業の一部であること、健康に生きるためのポイントの一つであることなど「食」の重要性に気づく実践が見られた。

**授業C**

- ・「食」に関することを学習に取り入れることで、児童の授業への興味・関心を高めることができた。
- ・「食」に関することを題材や教材にすることで、教材等を身近にとらえることができた。また、生活経験をもとに課題を設定したことで実感を伴って理解を深めることができた。



# 【視点2（共感力） 給食の時間等における食に関する指導の充実】

## 給食主任、担任等の連携と指導・支援の充実

### ■給食主任による給食目標の説明

毎月、給食目標の説明を行い、給食目標の具体的なねらいや内容について説明する。給食主任が話すことで、全ての学級で同じ内容を発達段階に合わせて説明することができる。

### ■担任による「給食通信」の利用

給食センターから発行される「パクパク通信」や「くまさん通信」の内容をクイズ形式で問題を出したり、関連する映像を見せたりし、食についての知識を広げる。また、食事のマナーの指導も、給食目標に関連して、継続的に行う。



## 学校栄養職員の効果的な活用

### ■授業での活用（実施回数 R1:7回→R2:17回→R3:19回 [9月現在]）

- ・学級活動…給食や栄養について
- ・家庭…調理計画立案の支援、栄養素の働きについて
- ・国語…食材の名前や旬の食材について
- ＊様々な教科・領域で、食に関する指導の全体計画に基づいて話をする。

### ■給食の時間での活用（毎月1回全学級で指導）

- ・指導内容：給食センターの仕事、食事の衛生、伝統料理、栄養素、郷土料理、旬の食材等



## 委員会活動の充実

- 給食委員会
  - ・栄養白板への献立の記入と食材写真の掲示
  - ・各学級の給食の準備や片付けの補助
  - ・残さず食べる取組や給食の準備や片付けに関する定期的なお知らせ
- 図書委員会
  - ・「食」に関する本の紹介
- 企画委員会
  - ・「給食目標」の振り返り
- 放送・人権委員会
  - ・給食の時間の放送
- 保健委員会
  - ・手洗い指導や黙食についての啓発



## 食育コーナーの活用

- 赤・黄・緑の食品群の掲示
  - …食品の種類や役割
- クイズ・栄養列車
  - …興味・関心を高める
- ワークシートの掲示
  - …朝食(味噌汁)作ろうデー（毎月19日前後）
- 学級掲示の統一
  - …給食目標や栄養白板等



- ・学校栄養職員、給食主任、担任の役割を明確にすることで、計画的に指導を行うことができ、内容も充実させることができた。
- ・学校栄養職員を家庭や学級活動だけでなく社会や国語等各教科でも積極的かつ効果的に活用したことで、学校栄養職員の活動の場が多岐に広がった。
- ・委員会活動では、給食委員会が中心であったが、食に関わるものやことについて考え、図書、環境、放送などの委員会で食に関する取組を行うことができた。
- ・食育コーナーでは、栄養白板の活用と給食通信等の掲示により給食への関心を高め、食材の栄養素や役割について日常的に学ぶことができた。



# 【視点3（協働力） 食育と関連させた保健指導の工夫 家庭・地域との連携による食育の推進】

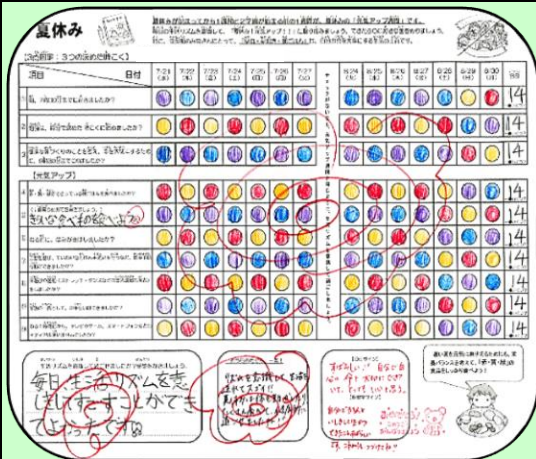
## 健康や食生活の指導の充実

### ■元気アップカードの記入内容

- ・食育の視点、「食のめあて」を記入
- ・生活習慣や健康に関すること、メディアについて
- ・児童の振り返りと家族からのコメント
- ・養護教諭や担任による児童の実態の把握
- ・朝食づくりや弁当づくりの取組を添付

### ■養護教諭による保健指導

- ・毎学期、全学年に食育と関連させた保健指導の実施



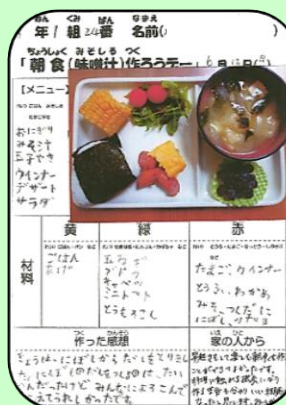
## 家庭との連携

### ■「朝食（味噌汁）作ろうデー」

- ・毎月19日（食育の日）前後に実施
- ・作ったメニューと赤・黄・緑に分類した食材、児童、保護者の振り返りを記入後提出
- ・業間に友達に紹介する時間を設定

### ■「弁当作ろうデー」

- ・「一人で」「いっしょに」「もりつけ」コースから選択しての取組



## 地域人材や教材の効果的な活用

### ■JAあしきた

- ・サツマイモの苗植えやサラ玉ちゃん作り
- ・学校園の耕作やマルチ張り ・農家の紹介

### ■芦北町漁業協同組合

- ・「うたせ船」や「田浦銀太刀」等の授業の教材づくり
- ・「うたせ船」や「不知火海の自然」等についてのGT

### ■芦北高校

- ・ケーキ作り・・・高校生、地元の洋菓子店、お茶農家との交流
- ・田植えと稲刈り・・・高校生との交流

### ■地域の商店、農家等

- ・岩永醤油 ・道の駅 でこぼん ・お茶のカジハラ等



- ・元気アップカードの取組に、新たに各児童の「食育のめあて」を記入する欄を加えたことで、具体的な実践につながり、保護者も無理なくスムーズに取り組むことができた。
- ・元気アップカードを継続的に取り組むことで、家庭、担任、養護教諭が児童一人一人の健康状態、食育への取組状況を把握することができ、家庭との双方向の連携を図ることができた。
- ・JA あしきたや芦北高校、芦北町漁業協同組合等と、栽培の支援・社会や総合的な学習の時間でのGTとしての活用・教材研究等での協力等、様々な交流や連携を行うことができた。
- ・「朝食（味噌汁）作ろうデー」や「弁当作ろうデー」の取組を通して、三者（児童・家庭・学校）で児童の成長を実感することができ、児童、家庭、学校を結ぶことができた。

### 3 研究の結果

#### (1) 仮説1について 児童アンケート・学力検査等より

質問事項 (4段階評価)		2年10月	3年10月
児童	赤・黄・緑を考えて食べていますか。	2.6	3.0
	授業が始まる時に勉強したいと思いますか。	3.2	3.4
	授業がよくわかりますか。(心のアンケート)	3.4(R1)	3.9(R2)
○給食は、栄養バランスや安全安心というよさがあるので弁当よりすぐれている。弁当は、自分で量や栄養バランスを考えて楽しく作れる点が給食よりすぐれている。(6年：国語)			
保護者	○食事の時に「これは赤。」等、とても意識して食べていました。(1年)		
調査・検査	教科等	平成31年	令和3年
全国学力・学習状況調査 (正答率%)	国語	64/65(県)	70/66(県)
	算数	57/66(県)	71/70(県)
標準学力検査(点)	総合	51.2 (2月)	52.6 (2月)

- 食材や栄養素についての理解が深まり、学んだことを生活の中で生かせるようになってきた。
- 教師が教科等のつながりを意識し、授業改善に取り組んだことで、児童の学習意欲の向上につながった。また、そのことが学力調査等の結果の向上にもつながっていると思われる。

#### (2) 仮説2について 児童・保護者アンケートより

質問事項 (4段階評価)		2年10月	3年10月
児童	いつも給食を楽しく食べていますか。	3.4	3.3
	人の気持ちを考え、いじめをせず、友達を大切にしていますか。	3.5(R2.3)	3.6(R3.6)
	自信のあることや自慢できることがありますか。(心のアンケート)	3.2(R1)	3.2(R2)
保護者	子供たちは「いただきます」「ごちそうさま」が言えますか。	2.9(R3.2)	3.0
児童	○チーズが苦手だったけど、給食で食べられるようになって家で食べられるようになった。食べるときの姿勢や食器の持ち方が上手になった。(2年：給食の時間)		
	○給食のために生産者の方々がいろいろな食材を作ってくださっていることを知り、嬉しい気持ちになった。これからは好き嫌いをせず感謝の気持ちを込めて給食を食べたいと思った。(3年：総合)		

- 黙食の推進等、給食の時間の過ごし方が変わり、給食の時間を楽しいと感じる割合が低下した。
- 食に関する指導の内容を工夫することで、生産者等への感謝の心や食事を大切にする心が育ってきた。

#### (3) 仮説3について 児童・保護者アンケート等より

質問事項 (4段階評価)		2年10月	3年10月
児童	朝食を食べてきていますか。	3.8	3.8
	食べる時のマナーを考えて食べていますか。	3.3	3.4
保護者	栄養素を意識して食事を作っていますか。	3.2(R3.2)	3.3
	子供とのコミュニケーションがとれていますか。	3.2(R2.3)	3.4(R3.6)
児童	○オムレツを一人で上手に作れたので、とても嬉しかった。自分で作ったらお店のよりもおいしく感じた。(4年：弁当づくり)		
	○田浦銀太刀がこんなに魅力があることを知らなかった。網でとるのではなく1匹ずつ釣っていることや鮮度を保つための工夫があることも初めて知りすごいと思った。(5年：社会)		
保護者	○毎朝同時刻に起き、朝食も欠かさず食べ、生活リズムも崩すことなく夏休みも過ごせました。(5年)		
	○朝食づくりを通して、食べる量、種類が増えたと思います。(4年)		
	○味噌汁もカレーも弟と一緒に作ってくれました。祖父母もおいしいと喜んでいました。(2年)		

- 食と健康を結んで考える素地ができ、高い朝食摂取率を持続することができた。
- 地域のGTの話や教材から児童が地域のよさや地域との結びつきを実感することができた。
- 朝食づくり等の取組と結果の発信により、児童や保護者の「食」に関する効果的な取組が継続した。



## 4 研究の成果と課題

### ■ 成 果 ■

- 食育の視点と各教科等の目標との関連が明確になり、教科等横断的なものの見方が指導者についてきた。
- 食に関する授業の充実と併せて日常の授業改善に取り組んできたことで、児童の思考力・判断力・表現力が高まり「探究力」がついてきた。
- 給食の時間の在り方を見直す中で、給食の時間の指導内容等を共通理解し、共通実践を図ることができ、給食の時間を充実させることができた。
- 学校栄養職員を効果的に活用したことで、児童の食への関心を高め、理解を深めることができた。
- 「人」「もの」「こと」のつながりを意識する心が育ってきたことで、児童に他者のことを考え思う気持ちや自尊感情、規範意識が高まり、「共感力」がついてきた。
- 地域の「人」「もの」「こと」と児童を食で結ぶことで、郷土に対する関心や学ぶ意欲が高まり、「協働力」がついてきた。
- 3つの視点に係る取組を有機的に行ったことで、児童が食に関する知識やマナーを身に付け、食を大切にする心を育み、食習慣の基盤づくりができた。また、物事を意欲的に調べたり、関連させて考えたり主体的に考動する素地ができてきた。

### ■ 課 題 ■

- 本校の育てたい力に食育の視点を当てはめて取り組んできたが、関連性に難しいところがあった。
- 全体での保健指導を行うことはできた。今後は、個別指導の充実を図りたい。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初計画していた調理実習や交流活動、見学などが制限され、体験活動等が十分に行えなかった。
- 令和2年7月豪雨や新型コロナウイルス感染症の影響もあり体力面の向上が見られなかったため、今後は、食育と関連した体力面の向上に取り組んでいきたい。



## 校長より

「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも『食』が重要である。」食育基本法の前文にあるこの一節を共通理解しながら、全職員で学校給食・食育の研究に取り組んできました。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う教育活動の制約や、令和2年7月豪雨による大きな困難に見舞われながらも、本校児童・職員の頑張り、保護者そして地域の皆様の協力により研究を進めることができました。徐々にではありますが児童の変容が見られ、「食」が教育活動にもたらす意義を皆で実感しています。

本校が取り組んできた研究が各校の学校給食の充実及び食育の推進に少しでも寄与することを願うとともに、いただいたご意見を今後の佐敷小の教育活動に生かしていく決意を新たにし、あいさついたします。

芦北町立佐敷小学校長 濱田 良彦